

令和5年度出水期は全国の、のべ181ダムで事前放流を実施！

～洪水に備え、既存ダムを活用し容量を確保～

令和5年度の出水期は、全国の、のべ181ダムでの事前放流の実施により、約7.4億m³の容量を確保し台風等の洪水に備えました。

- 令和2年度以降、全国のダムで事前放流の実施体制を整えて洪水に備えています。
- 今般、令和5年度の出水期における事前放流の実施状況をまとめましたので、お知らせします。

＜令和5年度出水期における事前放流の実施状況（概要）＞

	令和5年度	(参考) 令和4年度
治水等多目的ダム	87ダム	76ダム
利水ダム	94ダム	86ダム
合計	181ダム	162ダム

【別紙資料】

- ・ 令和5年度出水期における事前放流の実施状況（総括）
- ・ 事前放流の実施状況と利水ダム等による効果（櫛田川水系、米代川水系、雄物川水系、新宮川水系）

（参考）関連資料及び用語解説は、下記のホームページをご覧ください。

- 既存ダムの洪水調節機能強化に向けた検討会議

https://www.kantei.go.jp/jp/singi/kisondam_kouzuichousetsu/

- 既存ダムの洪水調節機能強化に向けた基本方針

https://www.kantei.go.jp/jp/singi/kisondam_kouzuichousetsu/pdf/kihon_hoshin.pdf

【問い合わせ先】

国土交通省 水管理・国土保全局 河川環境課 流水管理室
企画専門官 田中里佳（内線：35472）
水利・流水企画係長 西村文二（内線：35483）
代表：03(5253)8111 直通：03(5253)8449

令和5年度出水期における事前放流の実施状況(総括)

- 令和5年度の出水期においては、全国の、のべ181ダムで事前放流を実施したことにより約7.4億m³の容量を確保し、洪水に備えた。(令和5年5月8日～令和5年9月13日)
- そのうち、利水ダムではのべ94ダムで事前放流を実施したことにより約5.4億m³の容量を確保。

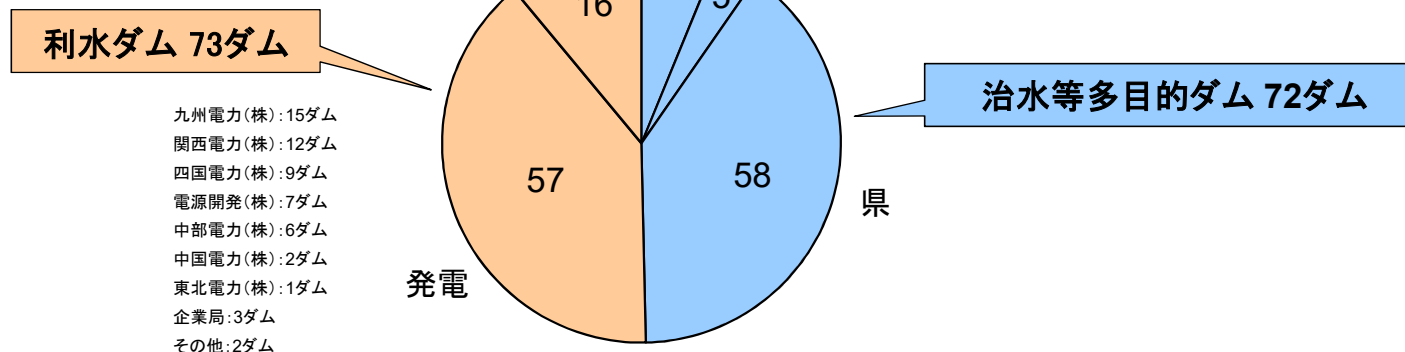
＜令和5年度出水期に事前放流を実施したダム数と確保容量の内訳＞

11月29日時点

名称	区分	令和5年度の主な降雨						合計 (ダム数の括弧書きは重複除きの数)
		5月8日からの大雨	台風第2号 (5月29日～)	6月29日からの大雨	台風第6号 (8月1日～)	台風第7号 (8月14日～)	台風第13号 (9月4日～)	
治水等多目的ダム	ダム数	2	29	12	16	28	0	87(72)
	確保容量(万m ³)	300	6,000	2,000	5,100	6,600	0	20,000【2.0億m ³ 】
利水ダム	ダム数	7	26	12	32	10	7	94(73)
	確保容量(万m ³)	2,000	9,500	3,100	12,800	21,400	5,300	54,100【5.4億m ³ 】
合計	ダム数	9	55	24	48	38	7	181(145)
	確保容量(万m ³)	2,300	15,500	5,100	17,900	28,000	5,300	74,100【7.4億m ³ 】

＜令和5年度出水期に事前放流を実施した145ダム（重複除き）の管理者＞

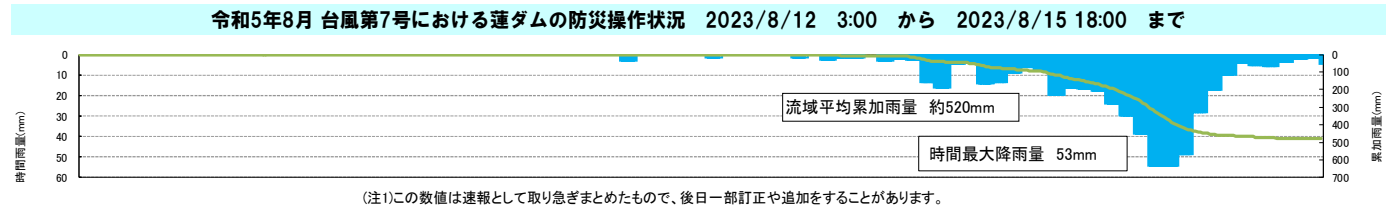
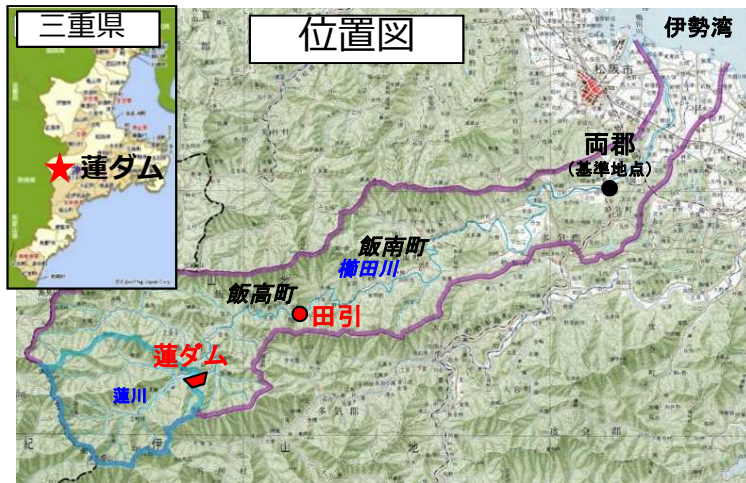
農政局:1ダム
水資源機構:2ダム
土地改良区:6ダム
県、市、町:7ダム



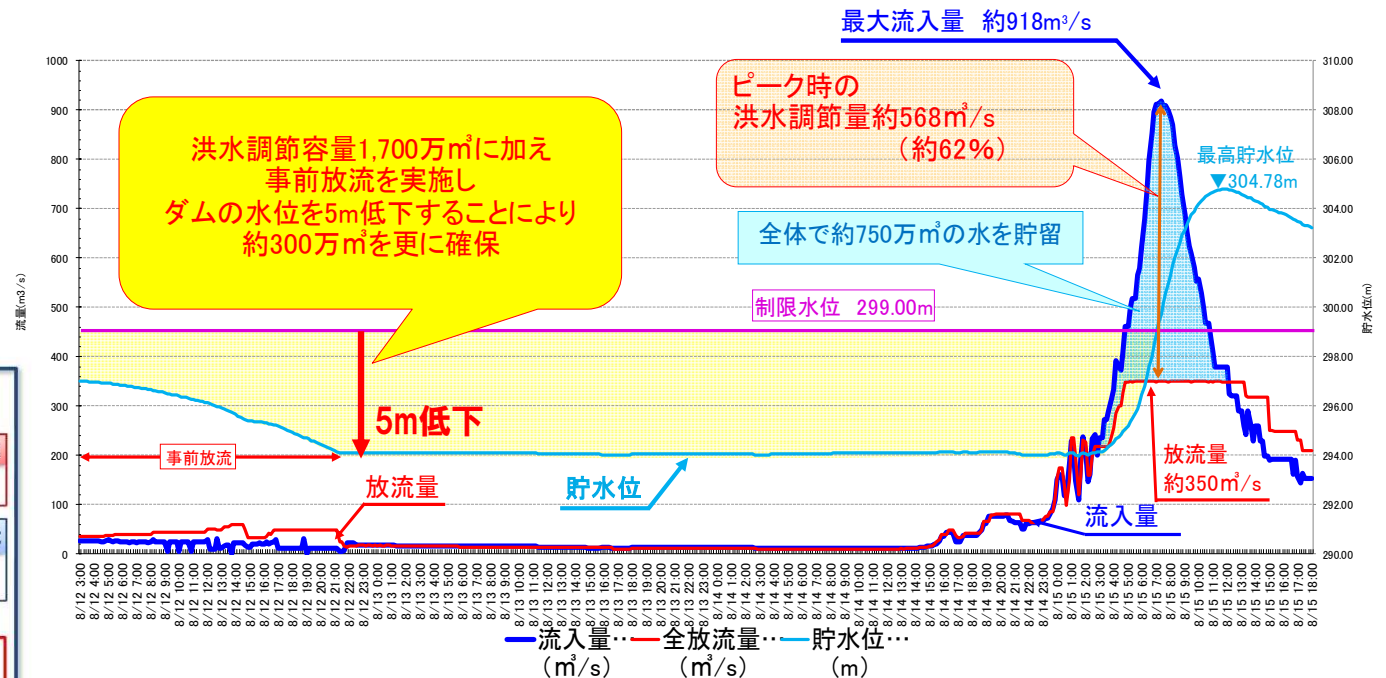
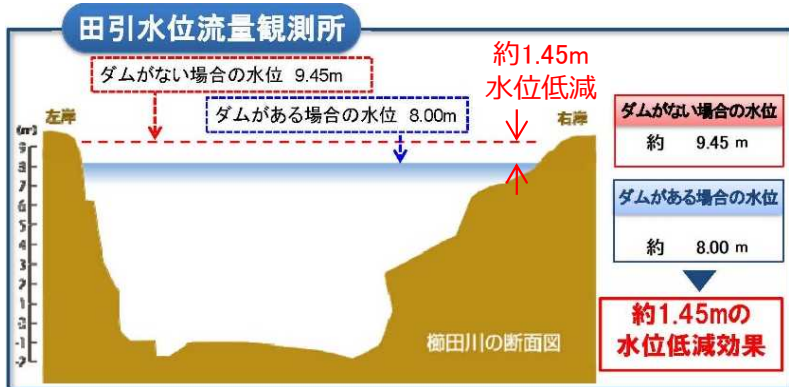
※この他、上記の主な降雨に関連し「すでに事前放流の容量を確保していたダム」が全国でのべ225ダムで容量を確保(約12.4億m³)

櫛田川水系蓮ダムの事前放流及び洪水調節による治水効果 (令和5年8月 台風第7号)

- 蓮ダム流域では、台風第7号による大雨の影響により、流域平均累加雨量は約520mmを記録し例年8月の総雨量の130%に相当する降雨を観測した。
- 洪水調節容量1,700万m³に加え事前放流を実施し、ダムの水位を5m低下させ更に約300万m³を確保した。
- 蓮ダムでは最大流入量約918m³/sを観測したが、洪水調節を実施しダムに洪水を貯留したことから、下流へ流れる洪水の量を最大で約568m³/s抑え、約350m³/sに低減した。
- 今回の洪水調節により櫛田川の水位は、田引地点(河口から58.0km)で約1.45m低下したものと推定される。

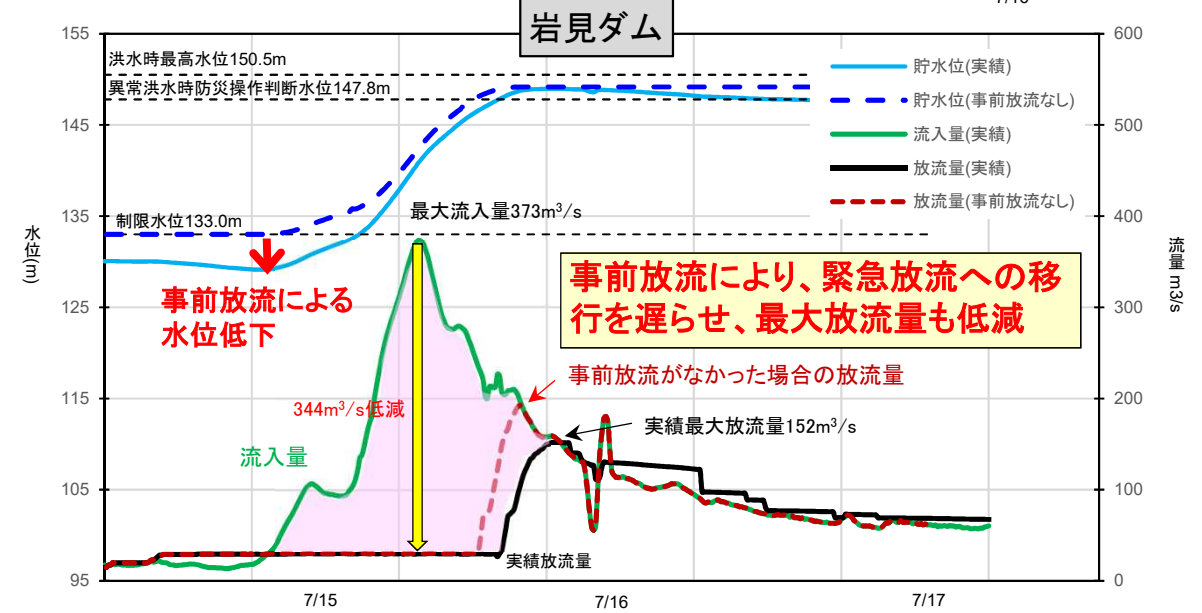
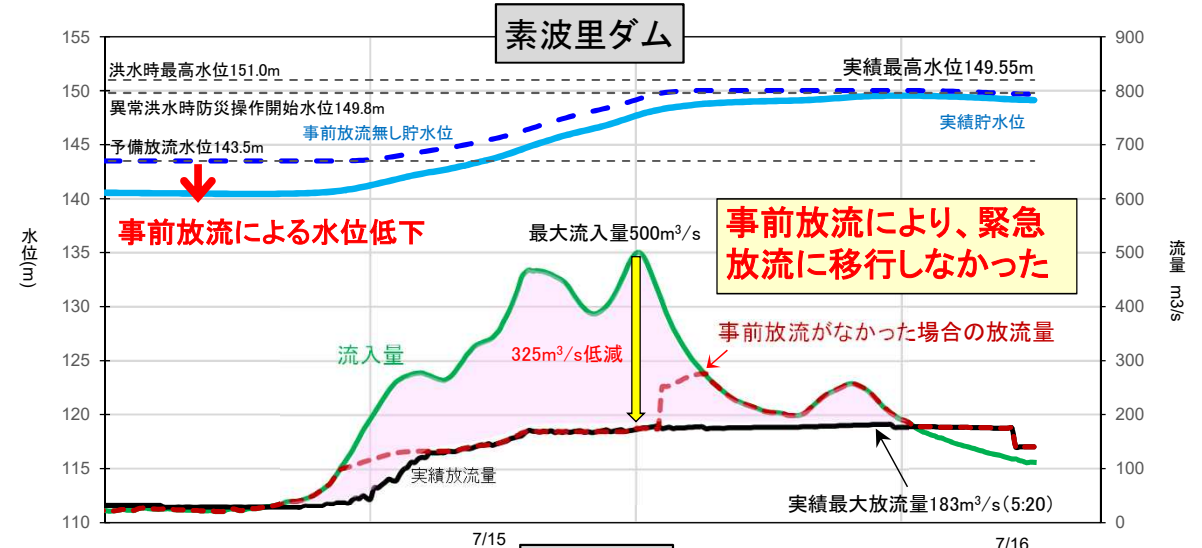


田引水位観測所地点の水位低減効果



※本資料は速報値であるため、今後の調査により数値等が変わることがあります。

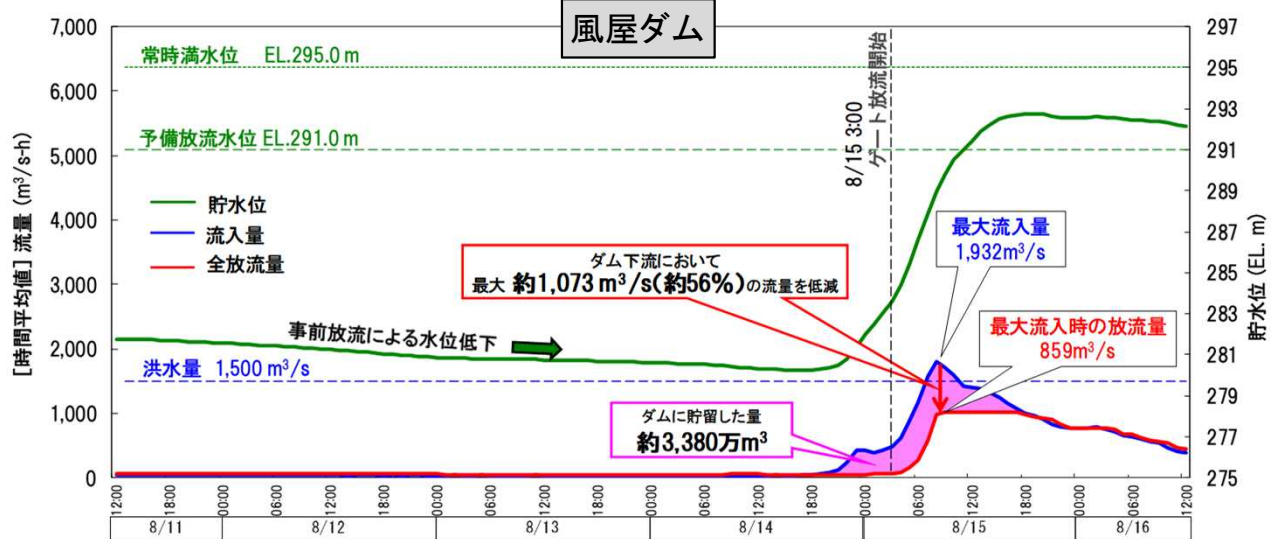
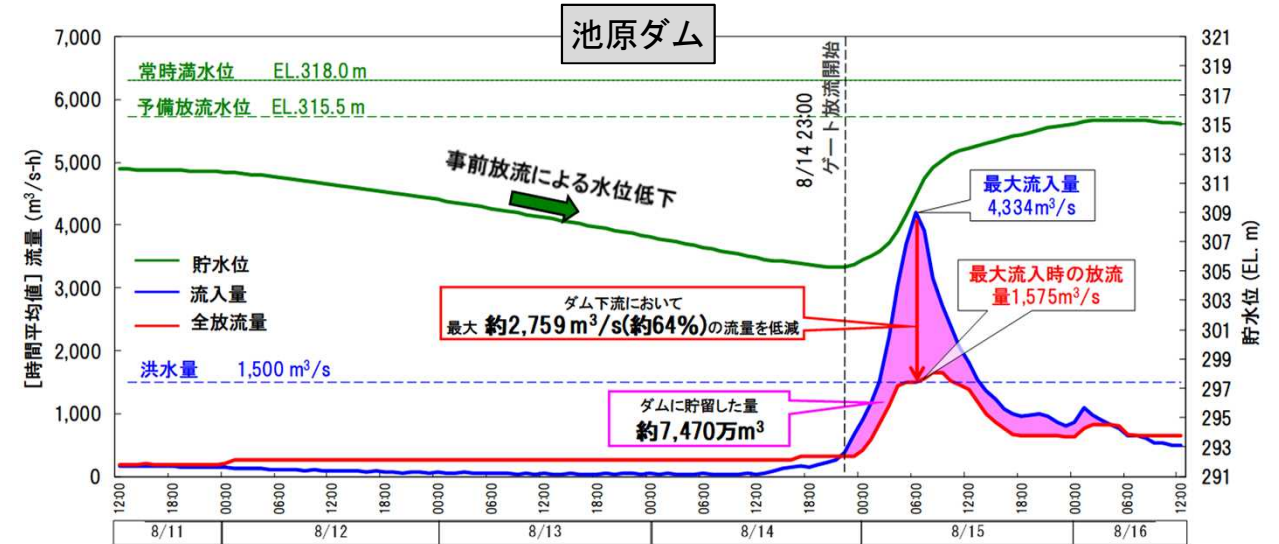
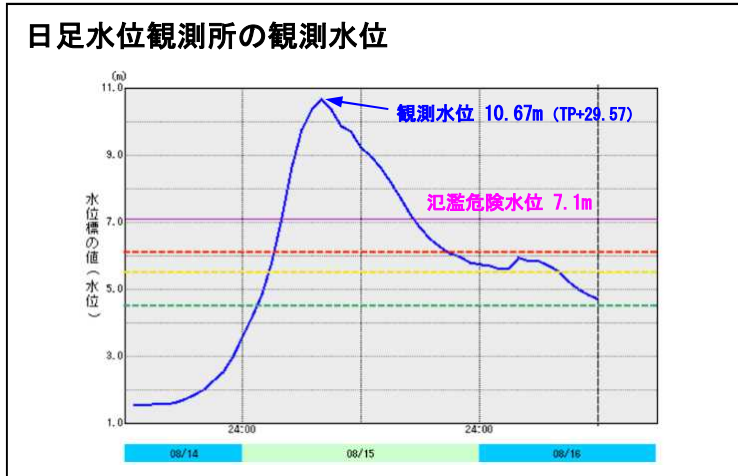
- 米代川水系粕毛川のかすげがわの素波里ダムでは、通常の洪水調節容量1,000万m³に加え、事前放流により約380万m³の容量を追加確保していたため、洪水調節容量を使い切ることなく、緊急放流に移行せずに洪水調節を行った。
- 雄物川水系三内川のさんないがわの岩見ダムでは、通常の洪水調節容量920万m³に加え、事前放流により約170万m³の容量を追加確保し、洪水調節を行った。大雨により緊急放流に移行したものの、下流の被害を軽減した。



新宮川水系の利水ダム(池原ダム・風屋ダム)による事前放流等による治水効果(令和5年8月 台風第7号)

○池原ダム、風屋ダムは、洪水調節機能を有していない利水ダムではあるが、台風7号において治水協定により台風による大規模な出水が想定されたことから、ダム下流河川沿川の洪水被害軽減を図るダム運用(事前放流等による貯水位を事前に低下させ空き容量を確保し、洪水時にダム放流量を低減)を実施した。

○新宮川水系熊野川では、台風7号において、これまでの河道整備と利水ダムの事前放流等の運用により、日足地区の日足観測所で河川水位を3.1m低減し、氾濫危険水位7.1mを超過したものの水位上昇を10.67mに留め、家屋浸水を回避した。



※数値等は速報値ですので、今後の精査等により変更する場合があります。